

- ① 小寺病院長インタビュー
日本の医療開発を主導し、次代の地域医療を支援する。
・新任のご挨拶
・ミニニュース
 - ② 健康講座「フレイル予防の食事について」
・教えて！この言葉「ドナーとレシピエント」
- ・病院からのお知らせ
 - ・ボランティアさん募集
 - ・ナディック通信
 - ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
 - ・禁煙のお願い
 - ・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

特集 TOPICS ① 小寺病院長インタビュー

日本の医療開発を主導し、次代の地域医療を支援する。



2021年4月、小寺泰弘教授が名古屋大学医学部附属病院長に就任し、3年目を迎えました。これまでの取り組みや今後の展望などについて伺いました。



研究活動を支援し、医療安全にも注力

平素は当院の運営にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。病院長に就任以来、日本や地域における当院の役割を考えさまざまな活動に取り組んできました。

まず研究面では、臨床研究中核病院として日本初の新たな医療の開発を主導するため、全診療科の研究活動を支援するセンターを設置しました。その結果、臨床試験数・論文数とも増加し、病院全体で研究力が向上しつつあります。

医療安全の取り組みについては、国立大学病院では初となる国際的な医療施設評価認証機関 JCI (Joint Commission International) の認証取得後も、患者安全の意識を根本においた診療を追求しており、JCI に則った診療の日常的な実践が新型コロナウイルスの感染対策においても役に立っております。今年度、再受審を予定しており、患者さんに信頼いただける安全文化の醸成を目指していきます。

医療情報を共有し、地域医療に貢献

情報通信技術を使ってより良い医療を提供するスマートホスピタル構想も、着実に進展しています。院内限定のネット通信でCT画像などを供覧しながらリモートでカンファレンスを行うシステムが迅速に立ち上げられ、感染対策の観点から一か所に大勢のスタッフが集まらない中で大いに役立っております。

地域の医療情報の共有という点では、当院が企業とともにサービス化した在宅医療介護連携システム「I-IJ電子@連絡帳」の導入が、愛知県内49自治体のほか全国に拡大しつつあります(2021年4月現在)。行政や医療・介護の専門職が1つのチームとして活動できるよう患者さんの医療・介護情報などを共有するもので、新型コロナウイルス感染症対策支援に向けての活用も始まりました。

希少がんやコロナに対応した体制を

診療面では、がんゲノム医療中核拠点病院としての活動が活発化し、患者さんに合った薬剤を調べるがん遺伝子パネル検査をスムーズに提供できるようになりました。また、今後注力していきたいのが希少がんへの対策です。希少がんの患者さんを集約して治療ができるセンターを構想しており、地域の患者さんの相談窓口としても機能させたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症に対しては、当院は集中治療室とコロナ専用病棟を設立して重症患者さんを中心に受け入れ、救急科を中心に全診療科の協力を得て治療を行っております(2021年4月現在)。また、全身麻酔で手術予定の患者さんにはPCR検査を実施し、院内で感染を広めない努力を続けています。これからの感染状況に応じて適切に対処しつつ、当院でしか行えない高難度の手術や薬物療法をはじめとする日常診療になるべく支障が出ないよう全力を尽くしてまいります。

新任のご挨拶

総合診療科長／病院教授 佐藤 寿一

この度、令和3年4月1日付で名古屋大学医学部附属病院総合診療科長／病院教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

総合診療科は、疾患だけを診るのではなく、患者さんが抱えるあらゆる健康問題に関心を注ぎ、目の前の患者さんのおみではなく、まわりを取り巻く家族、地域にも目を向けることを忘れません。診断・治療だけではなく、予防から福祉・介護までを視野に入れた総合ヘルスケアを実践します。



また、総合診療科では診断に難渋する紹介症例(不明熱、原発不明の悪性腫瘍など)、複数の臓器にまたがるような複雑な病態(膠原病など)に答えを出す最後の砦として機能しています。今後ともご支援・ご指導を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

ミニニュース

入院時の患者さんの負担軽減を目指して 「CSセット」をご利用ください

当院では、入院時に利用できる「CSセット(ケア・サポートセット)」を導入しております。「CSセット」は、入院時に必要となる病衣(ねまき)、タオル類、日用品および紙おむつを日額定額制のレンタルで利用いただけるサービスです。1ネット単位で利用できる私物洗濯サービスもございます。専門業者の洗濯工場での抗菌殺菌洗濯による清潔で安心な病衣等が提供されており、病院内における衛生環境の更なる向上と感染リスクの低減に寄与するものです。

これまで、患者さんやご家族に入院時の日用品や入院後の洗い替えなどをご用意いただいておりますが、導入後は、入院準備の手間の軽減や入院中の洗濯、洗い替えの運搬等が不要になるなど、患者さんやご家族にとって利便性の高いサービスとなっております。ご利用には、運営業者へのお申込みが必要です。病棟1階入退院受付内(CS受付ブース)のほか、外来棟2階入院案内センター前のCSセット受付ブースが、入院前の申込や相談の窓口としてご利用いただけます。



▲ CS セット受付ブース (入退院受付内)

教えて！

この言葉

ドナーとレシピエント

腎臓内科教授・移植連携室長 丸山 彰一

移植医療では、臓器や組織・細胞を「提供するひと」をドナー、「提供を受けるひと」をレシピエントと呼びます。急に英語で言われても…ちょっと分かりにくいですね。

名大病院では移植医療に力を入れています。現在、心臓、肝臓、腎臓、骨、骨髄の移植医療を実施しています。腎臓移植には、生体、脳死、心停止があります。生体腎移植は、家族から腎臓を提供していただくものです。脳死腎移植、心停止後の腎移植は合わせて献腎移植と言います。腎臓は、心臓が止まってからでも移植可能な虚血に比較的強い臓器です。

平成25年内閣府が実施した「臓器移植に関する世論調査」によると、「脳死下で臓器提供したい」あるいは「どちらかといえばしたい」と答えたひとは全年齢合わせると43%、20歳台に限ると64%にのびります。一般の方の案外多くが、脳死下臓器提供に前向きなんですね。こうした気持ちに答えるのも医療者の役目だと思っています。

移植臓器はドナーからレシピエントへの「いのちの贈りもの」です。名大病院ではこれまで脳死下での臓器提供の実績がありませんが、患者さんの意思を尊重し、患者さんやそのご家族に寄り添う医療を行っていきたくと考えています。



健康講座

フレイル予防の食事について

(厚生労働省作成「食べて元気にフレイル予防」より)

栄養管理部副部長 田中 文彦

フレイルをご存知でしょうか？年をとって体や心のはたらき、社会的なつながりが弱くなった状態を指します。そのままフレイルを放置すると、要介護状態になる可能性が高く、早めに適切な取組を行うことが必要です。フレイルの予防は日々の習慣と結びついており、食事の改善を含めた「栄養」、ウォーキングやストレッチなどの「身体活動」、趣味・ボランティア・就労を行うなどの「社会参加」がポイントとされています。「栄養」の中でフレイル予防の食事のとり方では、「①3食をしっかりとる」、「②1日2回以上、主食（ごはん、パン、麺類）・主菜（肉、魚、卵、大豆料理）・副菜（野菜、きのこ、いも、海藻料理）を組み合わせる」、「③いろいろな食品を食べる」などが重要です。また、たんぱく

質の摂取量が少なくなると筋肉量が減少し、加齢とともに筋たんぱく質の合成が遅くなるため、主菜や乳製品の摂取は大切となります。今回紹介をさせていただいた内容の詳細やたんぱく質の目標量と摂取の目安などが掲載されている「食べて元気にフレイル予防」(写真)は、厚生労働省のホームページよりダウンロード可能です。是非確認をして、フレイルの予防に努めましょう。



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000089299_00002.html
※フレイルは、要介護状態に至る前段階として位置づけられますが、身体的脆弱性のみならず精神・心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味します(「フレイル診療ガイド2018版」日本老年学会／国立長寿医療研究センター、2018)。

■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



★ ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
『名大病院 ボランティア』で検索♪

病院からのお知らせ

提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、1ヶ月あたり約60件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々の点検や定期的な更新を実施しております。2020年度下半期では、特に以下の改善を実施しました。

〈院内における主な設備面の改善〉

- 1) 中央診療棟 A 棟 2 階中央採血室のパーティション、椅子 2 脚更新
- 2) 病棟食堂のペーパータオルホルダー設置、テーブル天板補修
- 3) 病棟 7、10 階の談話コーナーのソファ更新
- 4) 外来棟 1 ～ 3 階、病棟 5 階キッズスペースのマット補修
- 5) 外来棟 1 階中央患者ホールの呼出スピーカー増設
- 6) 正面玄関にある車いす 10 台、ベビーカー 5 台、手荷物カート 3 台更新

〈院内における主な運用面の改善〉

- 1) 立体駐車場 A 階段開放



▲新しい車いすが入りました

Nagoya Disease Information Center ナディック通信



ナディックの利用休止について

患者情報センター（広場ナディック）は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を引き続き休止しています。

それに伴い、毎月開催していましたが教室（手作り、ちぎり絵、折り紙）は当面の間休止いたします。患者の集い、認知症サロンなどの患者さん向けのイベントについても次回の開催予定は未定です。

がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟 1 階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)



■ 禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL : <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QR コードでもアクセスできます！

